

「雲仙 花図鑑 春1」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、花々を愛でて楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

1	ユリワサビ:アブラナ科	2	アオモジ:クスノキ科	3	ミツバツツジ:ツツジ科	4	ツクシショウジョウバカマ:ユリ科
							
・3中～4初 多年草。湿った所に生え、白い十字状の花。葉をもむとワサビの匂いがすることからの名。また、根本から出た葉はワサビの葉に似ている。	・3中～4中 落葉小高木。南方系の植物で九州の西側に多く分布。雌雄異株でオスの花の方が大きい。咲く時節から「卒業花」とも呼ばれる。	・4下～5初 高さ2mほどの落葉低木。新緑の中に、やや淡いピンク色の花をつける。花の時期に3枚の葉を上に向けてつけるため、この名がある。	・3下～4初 やや湿った所に生える多年草。葉はロゼッタ状に多数つき、越冬したロゼッタ状の葉から花茎を立ち上げ白や淡紅色の花を咲かせる。				
5	ウンゼンカンアオイ:ウマノスズクサ科	6	ミヤマセントウソウ:セリ科	7	ハルトラノオ:タデ科	8	エイザンスミレ:スミレ科
							
・3中～5下 多年草。雲仙で発見されたカンアオイの一種。アズキ色の花には、花びらはなく、3枚のがくの下の方に壺状になり雄しべと雌しべがある。	・3中～4中 山野の林の下などに多い多年草。自然歩道沿いに、白い小さな花を咲かす。葉は全部根生して長い柄があり、根茎は短くて分枝し、株立ちになる	・3下～5初 多年草。山地の林縁などに生育。早春に白い小さな花が穂状に咲く。長い花穂がトラの尾のようであることからこの名がついた	・4初～4下 葉は大きく3つに裂け、さらにそれぞれ細かい切れ込みがある。花は淡い紫色が多いが、紅色から白色まである。比叡山で発見された。				
9	タチツボスミレ:スミレ科	10	ヤマルリソウ:ムラサキ科	11	ジロボウエンゴサク:ケシ科	12	フウロケマン:ケシ科
							
・3下～4下 多年草。地下茎は長く伸び、葉はハート形をしている。花は淡い紫色。はやしの周り、野原や歩道沿いでもよく見られる。	・4中～5初 多年草。山地の歩道沿いに見られる。花は咲き始めは淡いピンクで、やがてルリ色で地に這うように咲く。ロゼット状の根生葉で冬を越す。	・4中～5初 日当たりの良い草地などに生える多年草。青紫色の繊細な小花を2、3個細い茎の上につける。花の正面は唇方に開いて、シソ科の花に似ている。	・4初～5初 多年草。比較的日当たりの良い草地に生える。春、茎に総状花序をつけ、黄色の花が地面を這うようにたくさん咲く。				
13	ツルキンバイ:バラ科	14	ワチガイソウ:ナデシコ科	15	ヒトリズカ:センリョウ科	16	タツナミソウ:シソ科
							
・4下～5中 山地の林の下に生える多年草。葉は3枚の小葉からなり、黄色で径1.5から1.8cmの5弁花をつける。	・4下～5下 山地の木陰に転々と見られる多年草。上部の葉の付け根から細長い花柄を伸ばし白い花を一個つける。花弁は5箇あり先が尖っている。	・4中～5初 多年草で林の中や草地に群落で見られる。光沢のある葉の間に白い花が立つ姿から、静御前の舞姿にたとえてこの名が付けられた。	・5中～6中 多年草。自然歩道沿いや、芝生地でよく見られる。茎は直立し、紫色の花を穂状につける姿を波頭に見立ててこの名がついた。				

「雲仙 花図鑑 春2」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、花々を愛でて楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

17	アブラチャン:クスノキ科	18	シキミ:モクレン科	19	クロモジ:クスノキ科	20	ハイノキ:ハイノキ科
							
・4初～4中 落葉低木。春、葉に先立って小さな淡黄色の花をつける。夏になると小さな丸い果実が目立つ。樹皮や果実には多くの油を含む。雌雄異株		・3中～4下 常緑広葉樹。花はクリーム色で独特の匂いがある。仏前やお墓などに植えられる。実は猛毒で悪しき実からシキミ、漢字では「檜」。		・4初～5中 落葉低木。この名は、樹皮に地衣類が付着し、文字を書いたように見えることによる。樹皮には芳香があり、つまようじに利用される。雌雄異株		・4下～4中 常緑高木。高さ12m程になり樹皮は褐色。若葉を焼いて灰を作ったことからこの名がある。白い小さな花を多数つける。	
21	オオカメノキ:スイカズラ科	22	ヒカゲツツジ:ツツジ科	23	アズキナシ:バラ科	24	コバノガマズミ:スイカズラ科
							
・4下～5初 落葉低木。亀の甲羅を思わせる丸みのある葉にはへこみがあり、葉脈がはっきりしている。枝先から散房花序をだし、縁を白い装飾花が取り巻く。		・5初～5下 常緑低木。岩場や崖地などに群落で成育しツツジの中では早い方に淡い黄色の花を咲かせる。葉はシャクナゲに似ている。		・5中～5下 落葉低木。樹皮は灰黒色でざらざらしている。葉は互生楕円形で、縁は重鋸歯。5月中旬頃、枝先にまだらな白い花のついた散房序を出す。		・5下～6中 落葉低木。高さ2m～4m。日当たりの良いところに多く見られる。葉は対生し長楕円形で先端はとがり、縁には鋸歯がある。白い花が多数咲く。	
25	ヤブデマリ:スイカズラ科	26	タンナサワフタギ:ハイノキ科	27	オトコヨウゾメ:スイカズラ科	28	スイカズラ:スイカズラ科
							
・5下～6初 落葉低木。葉は対生し長楕円形で先端は急にとがる。枝先に散房花序をだし、周りの大きくてふぞろいの花は装飾花。果実は黒く熟す。		・5下～6下 落葉低木。樹皮は灰褐色で薄くはがれる。葉は互生し先端は尾状にとがり鋭い鋸歯がある。枝先に円錐花序をだし白い花を多数つける。		・5上～5中 落葉低木。日当たりの良い山地に生育。枝先から傘状花序を垂らして、白い花を5～10個つける。秋になると楕円形の赤い実をつける		・6中～6下 半落葉つる性。茎は長く伸び別枝。花は枝先に2箇所づつつけ。唇状に大きく2裂、はじめは白色で、のちに黄色になり、しおれる。	
29	コックパネウツギ:スイカズラ科	30	ネジキ:ツツジ科	31	シロウドダン:ツツジ科	32	オオヤマレンゲ:モクレン科
							
・5下～6中 落葉低木。枝は灰白色、葉は互生し卵形。枝の先端に薄黄色でラッパ形の花を2～7箇所つけ先端は浅く5裂する。新枝は赤みを帯びている。		・6中～7下 落葉小木。ツツジの仲間だねじれた幹が特徴でこの名がある。葉は互生し卵状楕円形、釣鐘状の白い花を横一列に咲かす。		・5下～6中 落葉低木のツツジの仲間。地獄地帯は群落で国の天然記念物の指定を受けている。葉が開いた後に枝先に釣鐘状の花を多数つり下げる。		・6中 落葉高木。長崎県では雲仙だけで見られる。6月中旬頃に枝先に白い可憐な花を咲かせる。その姿から「天女花」とも呼ばれる	

「雲仙 花図鑑 初夏1」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、花々を観て楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

<p>1 ヤマボウシ:ミズキ科</p> 	<p>2 ニシキウツギ:スイカズラ科</p> 	<p>3 ウンゼンマンネグサ:ペンケイソウ科</p> 	<p>4 シヤシヤンボ:ツツジ科</p> 
<p>・6下～7中 落葉高木。梅雨の頃山々を白く彩る。白い花びらに見えるのは4毎の総芳片。花は中心に密集した黄緑色の小さな集まり。</p>	<p>・6中～7中 落葉低木。分枝し高さ2m～5mになる。ラッパ型の花は始め白く、のちに赤く変化する。和名は、花の色が変わることからつけられた。</p>	<p>・6下～7中 多年草。雲仙で見つかったマンネグサ。岩場など水分が少ない場所でも成育でき常緑の事からこの名がつけられた。黄色い花をたくさんつける。</p>	<p>・7中～7下 常緑低木。葉は卵形で厚い革質。葉のわきから釣鐘状の白い小さな花をつける。(小小ん坊の名) 秋には黒紫色の実をつけ食べられる。</p>
<p>5 ヤマアジサイ:ユキノシタ科</p> 	<p>6 コオニユリ:ユリ科</p> 	<p>7 ヤマホトギス:ユリ科</p> 	<p>8 ノリウツギ:ユキノシタ科</p> 
<p>・7上～7下 落葉低木。湿った林内に生え分枝して1m程になる。葉は長楕円形で薄い。梅雨の時期、長い柄の鮮やかな着いた装飾花をつける。</p>	<p>・7上～7下 多年草。日当たりの良い湿り気のある場所に生える。オニユリ小型で、花は下を向く。花びらは強く反転し、燈赤色で暗紫点がある。</p>	<p>・7中～8中 多年草。初秋、葉の付け根などから柄をだし、花は上向きにつき白に紫色の斑点のある花を数個付ける。葉には油滴状の斑点がある。</p>	<p>・7中～8上 落葉低木。日当たりの良い林縁などで見られる。花びらのように見えるのは飾り花と小さな花が集まって咲く。サビタは別名。</p>
<p>9 ナツツバキ:ツバキ科</p> 	<p>10 コバギボウシ:ユリ科</p> 	<p>11 リョウブ:リョウブ科</p> 	<p>12 ホタルブクロ:キキョウカ科</p> 
<p>・7上～7下 落葉高木。山地に生え、高さ10mになる。樹皮は赤褐色で薄くはがれる。初夏、5枚の花弁の繊細な白い花を咲かせる。</p>	<p>・7中～8中 多年草。やや湿った草地に群生。葉は多数斜めにたち、つやがなく表面の脈はへこむ。青紫の花を横向きに咲かすギボウシの仲間、葉が小型。</p>	<p>・7中～7下 落葉小高木。乾燥に強く、山地の斜面や尾根筋で生育する。樹皮に特徴があり、茶色とまだら模様でつるつるしている。白い小さな花を密につける。</p>	<p>・7中～7下 多年草。自然歩道沿い群生で見られる。根生葉は卵心形で花期には枯れる。花は白または淡紅昔、子供達が虫をいれて遊んだという。</p>
<p>13 シシウド:セリ科</p> 	<p>14 ネジバナ:ラン科</p> 	<p>15 テリハアカショウマ:ユキノシタ科</p> 	<p>16 ホツツジ:ツツジ科</p> 
<p>・7中～8中 多年草。草原や日当たりの良い林縁に生育する。茎は中空で毛が生え直立。花茎の先に複散形花序をつけ広く放射状に花をつける。</p>	<p>・5中～8下 多年草。低地から山頂部まで見られる。日当たりの良い草地に淡紅色や白色の小さな花をらせん状に咲かせる。別名モジスリ。</p>	<p>・7中～8中 多年草。中腹以上の自然歩道沿いなどで見られる。白から桃色の小さな花を、枝別れして穂上につける。葉が厚く光沢がある。</p>	<p>・7下～8上 落葉低木。日当たりの良い岩場などに見られる。花は枝先に円錐花序をだし、淡紅白色の花をつける。雲仙のツツジ類では最後に咲く。</p>

「雲仙 花図鑑 夏2」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、花々を観て楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

17	ハンカイソウ:キク科	18	ヌスピトハギ:マメ科	19	ホソバシュロソウ:ユリ科	20	シギンカラマツ:キンポウゲ科
				・7下～8上 多年草。低山部からやや湿った草原まで生息する。葉は掌状に深く裂ける。高さ1m以上になり、大きな黄色花をつけ群落が見られる。	・8上～8下 多年草。自然歩道沿いに多く、細く長い枝に、白色と紅色の小さな花を多数付ける。名の由来は、果実が盗人の足型に似ているという説がある。	・7下～8中 多年草。山地の湿った林内に生える。根元にシュロの毛のような繊維がついている。8月になると暗紫褐色の花を咲かせる。	・7下～8中 多年草。山地の薄暗い林に生える。花序は複散房状で直径約1cmの白。花弁はなく、花弁のように見えるのは、多数の雄しべ。
21	クサアジサイ:ユキノシタ科	22	ウツボグサ:シソ科	23	アキノタムラソウ:シソ科	24	ネムノキ:マメ科
				・8中～8下 多年草。湿った林内に生育する。葉は互生し、基部の両端はとがる。茎の先に淡い紅色の小さな花を咲かせる。花のまわりに装飾花がつく。	・6中～8上 常緑低木。矢を入れる韋(うつぼ)に花型が似ることから名の由来。花穂は下から先上がり咲き、葉は対生し、地表に茎を伸ばして地面を覆う。	・7下～8下 多年草。山地の道端などに見られ、茎は四角で上部で枝分かかれし先端は青紫色の唇形。花は夏から秋にかけて長い期間咲き続ける。	・7中～7下 落葉低木。低地から山地まで見られる。枝の先端に逆円錐状の花房を付ける。花の色は濃淡の個体差があり、夜には葉を閉じる。
25	ウバユリ:ユリ科	26	アソノコギリソウ:キク科	27	ミヤコグサ:マメ科	28	センニンソウ:キンポウゲ科
				・7中～7下 多年草。花は緑白色で鉄砲ユリに似た花。花びらは、内側に3枚、外側に3枚ろうと形に着く。花が咲く頃、下側の葉が枯れている事からウバユリ。	・7下～8中 多年草。葉の形状がノコギリの刃に似ているのでこの名がついた。花は白を多数付ける。草原では普通に見られる	・7中～9中 多年草。黄色い蝶型の花を1～3個つける。花びらは5枚で根から多数の茎をつる状に伸ばす。5枚の小さな葉の表面には毛がない。	・7中～8中 多年草。花弁はなく白色の十字形の花びらはがく。葉が集まり一つの葉になり、他に葉にからむ。綿毛が仙人頭を想起させるとして命名された
29	ヒヨドリバナ:キク科	30	ミズヒキ:タデ科	31	ゲンノショウコ:フウロソウ科	32	ソバナ:キキョウ科
				・8下～9中 多年草。登山道沿いや、草原に自生する。小さな白い花を半球形に集合させる。花の集合を横から見ると傘形になる。	・8下～9中 多年草。自然歩道沿い花弁状のがくが深く4裂して、上側が紅色で下半分が白色。実になっても上は紅く、下は白色。これから祝儀袋の水引の名	・8中～9中 多年草。直径1.5cmの5弁花が咲く。東日本では白、西日本では赤色の花。下痢などの薬効「証拠」がある薬草。それで、現の証拠(ゲンノショウコ)。	・8下～9中 多年草。登山道沿いの斜面の草地に多く生える。葉がソバの葉に似ているので蕎麦菜。花は釣鐘形で、花の先は5裂し、がくの裂片に鋸歯はない。

「雲仙 花図鑑 秋1」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、花々を観て楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

<p>1 ゲンショウコ:フウロソウ科</p> 	<p>2 ツクシカエリソウ:シソ科</p> 	<p>3 クサアジサイ:ユキノシタ科</p> 	<p>4 ダイモンジソウ:ユキノシタ科</p> 
<p>・8下～10上 腹痛の薬として知られ、煎じて飲めばすぐに効果があることから、この名がついた。山野の草地、歩道沿いに普通に見られる多年草。</p>	<p>・9中～9下 紅色の花が多数集まり円柱形になる。あまりの美しさに見返ることからこな名がついた。茎の下部は木質化して低木状になる。</p>	<p>・8下～9下 やや湿った土壌の林の下に生えることが多く、アジサイに似て低木に見えるが、多年草で高さ、50cm程になる。自然歩道沿いに多く見られる</p>	<p>・9下～10上 大という漢字に似た花が咲くのでこの名がついた。湿った岩の裂け目などに生える多年草。この花の5弁の内、上の3弁は短く、下の2弁は長い。</p>
<p>5 イタドリ:タデ科</p> 	<p>6 キンミズヒキ:バラ科</p> 	<p>7 ツリフネソウ:ツリフネソウ科</p> 	<p>8 オミナエシ:オミナエシ科</p> 
<p>・7下～9下 日当たりの良い、荒地や斜面に生える多年草。若葉を手で揉んで傷口に当てると血が止まり、痛みが取れるとか。この「痛み取り」からイタドリ。塩漬けにして保存食になる。</p>	<p>・8下～9下 山野の歩道や草地に生える多年草。タデ科のミズヒキに花のつき方が似て、花の色が黄色なので金水引の名前がついた。草むらで、衣服に実が付き取るのに苦労する。</p>	<p>・9上～10上 湿った草むらに群生する1年草。細い枝の先にぶら下がって咲いている花を花器の釣舟にたとえた名前。花の形が変わっていて、がく片の一つが大きな袋になっている。</p>	<p>・9上～9下 秋の七草の一つ。日当たりの良い草原に生える多年草。茎の上部の枝先に黄色の小さな花が多数つける。地下茎は横にはい、その先端に新苗をつくて増える。</p>
<p>9 オオバショウマ:キンボウゲ科</p> 	<p>10 ワレモコウ:バラ科</p> 	<p>11 ツルニンジン:キキョウ科</p> 	<p>12 アキチョウジ:シソ科</p> 
<p>・9上～9下 花がサラシナショウマに似ているので、その花が大きいのでオオバショウマの名がついた。林野下に生える多年草、穂状の花序にたくさん花をつける。</p>	<p>・9上～9下 茎の中部から枝分かれし、小さな暗褐色の花が多数楕円球状に集合する。上から咲き1つの花は花弁状のがくが4枚つく、花弁はない。</p>	<p>・9中～9下 つる性の多年草。根が朝鮮人参のように太くなることからこの名がついた。つるの所々に広鐘状の花をつける。つるや葉を切ると白い乳液が出る。</p>	<p>・9中～10上 花のつく様子が丁字状になっていることから、この名がついた。登山道沿いで、鮮やかな青紫色の長い花が、細長い穂に群れて咲いている。</p>
<p>13 ウンゼンリカブト:キンボウゲ科</p> 	<p>14 アソノコギリソウ:キク科</p> 	<p>15 アケボノソウ:リンドウ科</p> 	<p>16 ウメバチソウ:ユキノシタ科</p> 
<p>・9上～10上 雅楽の冠(鳥兜)に似た独特な形、僧帽型のがく片。毒草であるが、地下の塊根は強心剤や鎮痛薬の原料になっていた。</p>	<p>・7下～9中 乾燥した草原の生える多年草。葉のへりのある鋸歯がノコギリのように並ぶのでノコギリソウ。花は小さく上部で枝分かれした数の花をつける。</p>	<p>・9中～10中 山地の湿ったところに咲く2年草。5つに裂けた花に紫黒色の点を「夜明けの星」に見立てアケボノソウ。葉は長めの卵形で、茎に対生する。</p>	<p>・10上～10下 山地の日当たりの良い湿った草地に生える多年草。花が家紋の「梅鉢」に似ているのでこの名がついた。茎の中央にハート型の葉をつける</p>

「雲仙 花図鑑 秋2」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され,その豊かな自然や景観が古くから継承,保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し,美しい自然や,花々を観て楽しみましょう!(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう!)

17	ノガリヤス:イネ科	18	フクオウソウ:キク科	19	アレノギク:キク科	20	キバナアキギリ:シソ科
							
・9中～10中 日当たりの良い草地や雑木林に生える多年草。葉の長さは30cm～40cm,茎は細くて堅い。花序は20～40cmの円錐状で紫色を帯びた小さな穂。		・9下～10下 山地の木陰に生える多年草。葉は茎の下部につきハート型で切れ込みがある。茎の中間から上に円錐状に枝を分け,多数の花(頭花)をつける。		・9中～11中 日当たりに良い乾いた草地に生える2年草。根元から枝分かれし茎や葉に,粗い毛が多い。頭花は直径3cm～4cm,舌状花は淡青紫色で一列。		・9上～10中 山地の木陰に生える多年草。花の形がキリの花を思わせ,この名がある,群生が多く茎は四角形。葉は対生,縁に鋸歯花は淡黄色で唇形。	
21	ジンジソウ:ユキノシタ科	22	ナンバンギセル:ハマウツボ科	23	リンドウ:リンドウ科	24	メタカラコウ:キク科
							
・10上～10下 日陰の岩の上などに生える多年草。花の下に下がる2枚の花弁が大きく「人」の字に似てその名がついた。葉は,まばらに毛があり,カエデの葉のように掌状に切れ込む。		・8下～10下 キセルに似ていることからこの名がついた。よくススキの根に寄生する1年生の寄生植物。長い花柄の先に淡紅紫色の花を横向きにつける。茎は短くてほとんど地上に出ない。		・10上～11下 草原や山野に生える多年草。昔から漢方薬として,根や茎は健胃薬として使われる。この葉が,龍胆(リュウタン),それが訛って「リンドウ」の和名となる。		・9上～9中 湿り気のある場所に群れて生える事が多い。長い茎に黄花を多数つける。花びら(舌状花)が1～3枚,中央に筒状花が6～11個の花。葉はハート型で両端は細く尖る。	
25	キッコウハグマ:キク科	26	ツクシコウモリ:キク科	27	ノコンギク:キク科	28	ミヤマウズラ:ラン科
							
・9中～10中 やや乾いた木陰に生える多年草。葉の形が亀の甲羅に似ている。頭花には,3小花がつき,花冠が深く5裂し多くの小花をつけているように見える。		・9上～9中 山地の林に生える多年草。葉の形が,コウモリの翼に似ているのでこの名がある。茎の上部に少しだけ枝を分けて1つの白い頭花を円錐状につける		・9上～10下 野山の草原,歩道沿いに普通に見られる多年草。茎の上部で細かく枝分かれして先端に淡紫色の花を咲かす。茎や葉には固い毛がある。		・9中～9下 野鳥のウズラの羽に葉の模様が似ているのでこの名が付いている。直径1cm程の白い花が片側に寄ってつく。葉は暗緑色で白い斑点がある。	
29	ミズヒキ:タデ科	30	ウンゼンアザミ:キク科	31	センニンソウ:キンポウゲ科	32	ミヤコグサ:マメ科
							
・9上～9下 林の端などに生える多年草。小さな花がまだらに長く穂状につく。上から見ると赤く下から覗くと白く見え,紅白なので「水引」(ミズヒキ)		・9中～10上 山地に普通に見られる多年草。葉は羽状に切り込み,鋭いトゲがある。根生葉は花のころには枯れている。茎は途中から枝分かれしない。		・8中～9中 日当たりの良い林のふちなどに生えるつる性の多年草。花弁は無く,白い十字形はがく。小葉3～7枚集まり1つの葉に。葉柄がほかの草にからむ。		・7中～9下 エンドウに似た花形で,黄色い花を咲かせる多年草。日本全国の道端や野原,海岸で見られる野草ですが,京都によく見られるのでミヤコグサ。	

「雲仙 花図鑑 秋3」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、花々を観て楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、**採集は止めましょう!**)

33	ソバナ:キキョウカ科	34	アキノキリンソウ:キク科	35	ペンケイソウ:ペンケイソウ科	36	タカネハンショウズル:キンボウゲ科
							
・8下～9上 多年草。低山部から山地までのやや湿った草原に生息する。高さ1m以上になり、群落が見られる。葉がソバの葉に似ているので蕎麦菜	・9下～10中 多年草。日当たりのよい草原に成育。3～10本程の茎が出て株立ちとなり、茎はまっすぐ伸びて、先端に花径5mmほどの黄色の花を多数咲かせる。	・9上～10上 山野に生える多年草。高さは50cm程。葉は対生で楕円形で厚く、白みを帯びる。夏から秋に、淡紅色の小花が多数集まって咲く。	・9上～10上 林のふちに生える低木。火災を知らせる「半鐘」に似ていることから名がついた。茎はつる状に伸び、楕円形の葉が3枚セットで1枚の葉。				
37	ヒヨドリバナ:キク科	38	オトコエシ:オトコエシ科	39	コマツナギ:マメ科	40	センブリ:リンドウ科
							
・8中～9下 山地のやや乾いたところに咲く多年草。乾いた花がらは火おこしの材料になるので「火取花」茎中間から上で枝分かれし上部に小さな花を集合。	・8下～10上 山野や草地に多い多年草。オミナエシに似て、白花で葉も大きく「男郎花」の名がつく。小さな白色の花が集まって散房状につく。葉は茎に対生。	・9下～10中 日当たりの良い所に生える草本状の小低木。根や茎が馬「駒」をつないでも抜けない程強い事からこの名がついた。花は紅紫色で穂が多数。	・9中～10中 日当たりの良い草地に生える2年草。胃腸薬として知られ、乾燥したものをお湯に振出して飲む。花は白地に紫色のすじがある。(別名;当薬)				
41	ヤマハッカ:マメ科	42	ギンリョウソウ:イチヤクソウ科	43	ヤマラッキョウ:ユリ科	44	デンニソウ:シソ科
							
・9中～10下 草地や林に見られる多年草。茎が四角形で下向きの毛が生える。青紫色の小さな唇形の斑点のある花が細長く穂になって多数つく。	・9上～9中 全体に白く、花は茎の先に1箇だけつく。夏から秋にかけて咲くので秋の銀龍草の名がある。別名ギンリョウソウモドキの名がある。	・9中～10中 山地や草地に生える多年草。地中にラッキョウに似た茎があり、茎や葉を傷つけるとネギのような匂いがする。先端に紅紫色の小さな花を咲かす。	・9中～10上 谷浴いなどの湿った場所に生育する多年草。地下には木化した地下茎があり、開けた場所に大きな群落を形成することがある。				
45	ヤクシソウ:キク科	46	キオン:キク科	47	アレノギク:キク科	48	ナガサキシヤジン:キキョウ科
							
・9中～11中 日当たりの良いところに咲く2年草。茎は枝分かれし、枝の上部に花がつく。「薬師草」の名がありながら、薬効がほとんどない草。	・10上～10下 日当たりの良い草地に生える多年草。葉は互生し長楕円形で鋸歯があり、先端は尖る、茎は上部で分かれ多数の黄色の花を散房状につける。	・9中～11中 日当たりの良い乾いた草地に生える2年草。根本から枝分かれし、茎や葉に荒い毛が多い。花は3cm～4cm、舌状花は淡青紫色で一列。	・8下～10上 山地の草原に見られる多年草。高さ80cm程。葉は3～5個が輪生し、長さ5cm程度の長楕円状披針形。花柱が長い。別名;サイウウシヤジン				

「雲仙 実図鑑 秋4」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、花々を観て楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、**採集は止めましょう!**)

49	メギ:メギ科	50	ミヤマシキミ:ミカン科	51	ヤマボウシ:ミズキ科	52	コバノガマズミ:スイカズラ科
							
10下~11中 高さ2m程で山地の林縁や原野に生息し、枝の節や付け根には5~12mmのトゲがある。身は、液果で長さ7~10mmの楕円形で赤く熟す。		・9下~10下 林下に生え、高さ0.5m~1.5mになる。葉は枝先に集まって表面には光沢がある。果実は直径8mm~9mmの球形で紅色に熟するが猛毒。		・9中~10中 高さ5m~10m。山地や山内などに成育。白い花に見えるのは4個の総苞片。果実は集合果の球形で赤い実が熟す。		・10上~10下 高さ2~4m。葉は対生し長さ9~10cm。先端は鋭く尖り、ふちはあらい鋸歯。実は10月頃に熟す。長さ6~7mmのやや扁平な卵球形。	
53	ツリバナ:ニシギ科	54	ハナイカダ:ミズキ科	55	イヌツゲ:モチノキ科	56	マユミ:ニシギ科
							
・10上~10下 高さ4m程になる。葉は対生し卵形でふちに細い鋸歯。実は直径9~12mmの球形で熟して5裂すると朱赤色の仮種皮に包まれた種子が現れる。		・7上~8下 高さ1~2m。葉は互生し長さ6~12cmの長楕円形。5月~6月葉の表面の主脈の中央に淡緑色の小さな花をつけ、果実は直径7~9mmで黒。		・10下~11上 高さ3~5m。山地の草原や林縁に乾燥した所に成育。葉は互生で表面には光沢がある。果実は5~6mmの球体で黒く熟す。		・10中~11下 高さ3~5m大きい木は15m。葉は5~15cm楕円形、先は鋭く尖り、縁は細い鋸歯、実は淡紅色に熟し4つに深く裂ける。赤い種子が現れる	
57	サワフタギ:ハイノキ科	58	アズキナシ:バラ科	59	タンナサワフタギ:ハイノキ科	60	ウグイスカグラ:スイカズラ科
							
・10中~11上 高さ4~6m。樹皮は灰褐色で浅く縦に裂ける。葉は互生、長さ4~8cm楕円形で鋸歯がある。果実は6~7mmのゆがんだ卵形で藍色。		・10下11中 高さ10~15m、樹皮は灰褐色でざらざらし、老木になると縦に裂け目。葉は互生し長さ5~10cm。果実は長さ8~10cmで紅色に熟す。		・11上~11下 高さ3~5m。樹皮は灰褐色で薄くはがれる。葉は互生5~9cmの広倒卵形。先端は尾状に尖る。果実は6~7mmのゆがんだ卵形で藍黒色。		・10中~11上 分岐して高さ1.5~3m。樹皮は縦に裂け灰黒色。葉は互生し、2.5~5cmの広楕円形で無毛。淡紅色の実を一個、まれに2個下垂する。	
61	ウンゼンマムシグサ:サトイモ科	62	コマユミ:ニシギ科	63	ノササグ:マメ科	64	ヤブムラサキ:クマツヅラ科
							
・8下~9上 薄暗い林に生える多年草。花の形がマムシが舌を出した形に似ていることから、この名がついた。実は赤い小さな集合果をつける。		・10下~11中 高さ2~3m。大きい物は5m。枝にコルク質の翼が発達。葉は互生でふちに鋸歯。実は卵形で、熟して裂けると赤色の種子が1個下がる。		・8下~9中 林の縁などに生えるつる性の多年草。茎は黒褐色を帯び、いろいろなものに絡み合って伸びる。頭果は2~5cmで数珠状にくびれ熟すと紫色。		・10上~10下 高さ2~3m。葉、花冠、花序には星状毛が多い、淡紫色の花。果実は直径約4mmの球形で紫色に熟す。	